

<金標準、利下げ思惑もピークに近く突発的な調整に注意・・・>



(出所：オアシス)

パウエル FRB 議長は上院議会金融委員会で半期に一度の議会証言を行い「年内いずれかの時点で」利下げを開始するのが適切になる可能性が高いとしつつ、当局としてまだその用意はないと述べ、翌日には上院議会銀行委員会で議会証言を行い「今から遠くないその時点で、景気抑制の度合いを巻き戻し始めるのが適切になるだろう」と述べ、また ECB 理事会ではラガルド ECB 総裁は利下げについて「4月にはもう少し多くの、6月にはさらに多くのことが分かるだろう」と利下げを示唆する発言を行っている。また週末の雇用統計では非農業部門就業者数が事前予想の 20 万人増を上回る 27.5 万人増となったが、先月の 35.3 万人増が 22.9 万人増へ下方修正され、失業率は 3.9%と 2 年ぶりに高水準を示すなど 6 月の利下げ思惑が強まり、NY 金は 2203 ドルまで高値を試している。しかし金標準先物は円建て取引だけに、雇用統計を受け円ドルは 146.49 円まで円高が進み、円建て価格は高値が抑えられた値動きだけに思惑相場が終わった後の調整安には注意が必要と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が切り上げ、**シグナル**は上昇している。ただ乖離を示すヒストグラムは縮小を示している。また RCI は**短期**と**長期**が重なり強気の継続を示唆しており、どちらもピークに近く調整に備える事が妥当と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,390,000 円(2024 年 3 月 11 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2024 年 3 月 11 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>